## 都留の野ぼとけ（三）

# 六地蔵

鈴木茂治

野ぼとけといえば、すぐ思い浮かぶのが「お地蔵さま」です。平安の昔から、今もなお庶民に親しまれている「野ぼとけ」の筆頭といってもいいでしょう。

ふつうお地蔵さまといえば、右手に錫杖、左手に宝珠を持ち、頭を丸めた僧形の「地蔵菩薩」のことですが、じつは別にもう一種のお地蔵さまがあるのです。それは、郡内地方には特に多いという六地蔵です。

### 六地蔵

このお地蔵さまは、六道（すべての人が迷いを繰り返すという六つの世界）の辻にいて、迷いさまよっている人間たちを、救い導いてくださるといわれています。だから、一つの石に六体のお地蔵さまが刻まれているのです。

市内には現在、三十五基の六地蔵が見つかっています。

その中で最古は「延宝七年（一六七九）己未七月吉日」と彫られている上細野の地蔵堂の六地蔵です。お堂の中にあるためか、とても保存がよく、可愛い童形のお地蔵さまが六人、ずらりと行儀良く並んでいらっしゃいます。

写真の上谷元坂入口のものは、細野のものとは違い、ずっと露天にあったためか、お姿は摩耗してしまって定かではありませんが、かえって長い間、人々の悩みや苦しみを癒やしてくれた優しさ・有難さが、にじみでているような気がする六地蔵です。

上谷元坂入口・六地蔵

このような碑形を「笠付浮彫立像」といい、細野のような屋根が三角状のものを「高札形浮彫立像」といいます。ちなみに、碑高は七三センチメートルあって、市内の並列形六地蔵の中では最大級のものです。

このような、石板平面に浮彫された六地蔵のほかに、円柱、六角柱状の側面に、六体のお地蔵さまを一体ずつ彫ったものもあります。

その一つが、写真の弁天町の一本地蔵です。

下谷弁天町・一本地蔵

### 一本地蔵

この六地蔵には、郡内地方に伝わる悲しい犠牲と鎮魂の物語が秘められているのです。

江戸初期の天和元年（一六八一）、永年の飢饉と重税にあえぐ郡内十九ヵ村の代表七人の村役人は、江戸の奉行所へ越訴（地元の役所をとび越えて直接江戸へ訴える）を決行。しかし、願い空しく捕えられて全員田町の刑場の露と消えました。今の一本地蔵のある所はその時、胴体を捨てた所だそうです。村人たちはそこに六地蔵を建て、七人の霊を慰めたのでした。

こうした六地蔵は、郡内の村々の辻に今も多く残されています。中でも金井用津院の六地蔵には、金井河原で処刑されたという代表七人の名前が刻まれています。

## 歴史教室開催

ふるさとの歴史に触れてみませんか。

「事件・出来事で綴る郡内の歴史」をテーマとした歴史教室を六月から一月までの七回にわたり開催します。

会　場　富士女性センター
　　小研修室
時　間　午前10時～12時
参　加　どなたでも自由
資料代　１０００円
内　容
　第1回　6月25日
　　「徐福蓬莱山への旅」
　第2回　7月23日
　　「貞観富士噴火」
　第3回　8月24日
　　「天正壬午の乱」
　第4回　9月24日
　　「芭蕉谷村流寓」
　第5回　10月22日
　　「茶壷道中」
　第6回　11月26日
　　「天明・天保の飢饉」
　第7回　1月28日
　　「贋勅使事件」
問合先　都留市郷土研究会
　　事務局　小林貞夫
　　☎(43)6916

## 第2回ふるさと探検隊

第２回は谷村地区を対象に泉屋（厚焼せんべい）・清水染工・金比羅神社・都留市商家資料館（旧仁科家住宅）・佐野印刷などを探索します。

日　　時　6月10日　午前９時00分
集合場所　都留市農協会館・駐車場
持 ち 物　弁当・筆記用具
申込み方法　電話で申し込んでください。
申込・問合先　ふるさと探検隊実行委員会
　　長田昇☎(43)４６３１
対 象 者　小学生以上